

様式1 令和4年度 山梨県立日川学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	文武両道の実践を軸に心身を練磨し、高い知性と教養、たくましい身体と精神力、豊かな感性をあわせ持つ生徒を育成する。
-----------	--

山梨県立日川学校校長 橋田 浩

本年度の重点目標	1. 質の高い文武両道を求め、自ら学び、考え、行動する生徒の育成に努める。
	2. 個性や進路希望に応じた指導を行い、体系的なキャリア教育を推進する。
	3. 規律や責任を重んじ、豊かな心の育成に努める。
	4. 安全で信頼される学校づくりの推進に努める。

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価							
番号	評価項目	本年度の重点目標	具体的方策	方策の評価指標	年度末評価(令和5年2月10日現在)		
					自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	質の高い文武両道を求め、自ら学び、考え、行動する生徒の育成に努める。	<p>年次ごと家庭学習習慣の向上に努め、4時間学習・2時間練習を確立する。</p> <p>学習目標の明確化及び指導と評価の一体化に努め、ICTの積極活用と、主体的対話的で深い学びの推進により、授業力の向上を図る。</p> <p>効率的な指導や効率的な活動の研究により、個々の得意分野の伸長を図る。</p> <p>障害者雇用を活用し、教員の事務負担を軽減する等、働き方改革を推進することで生徒の育成に係る時間を確保する。</p>	<p>授業アンケート実施 学習記録の電子化 下校時間の徹底</p> <p>面談、補習の実施 大型TVの活用 職員研修の実施</p> <p>授業公開日の設定 相互授業見学 ICT活用研修会の実施</p> <p>分掌業務の移管 時間外勤務状況の改善</p>	<p>生徒の授業に積極的に参加しているという自己評価は95%でありが、授業の予習・復習や家庭における目標学習時間の確保を達成できた生徒は約90%程度であった。Classiによる学習記録を実施した。</p> <p>ICTを活用し、約90%の教職員が指導と評価の一体化の研究を深め、授業改善に取り組んだ。ICT支援員による研修実施。 年間を通じて授業公開とし、集中した相互授業見学期間を年2回設けた。</p> <p>オンライン授業やICT研修を導入して教員のICT機器の活用が約10%(昨年比)進んだが、生徒よりも有効活用が低い。</p> <p>業務の分担等で、働き方改革を進め、95%の教職員が気軽に相談できる雰囲気であると評価しているが、依然として時間外勤務減少を図る必要がある。</p>	B	<p>・文武両道の意識が高まっているが家庭学習時間の確保には課題を残す。HR担任、部活動顧問との連携のもと指導・働きかけを行う。ICTを活用し、家庭とも連携して指導に当たる。生徒には学習目標を設定させ、具体的な学習計画を描かせる指導が必要である。新評価基準に基づき学力の向上と新大学入試に向けた実力アップを図る。</p> <p>・さらにICT活用を浸透させ、生徒の主体的な学習活動や教職員の業務軽減を図る。</p> <p>・授業や部活動指導に加えて、生徒指導など費やす時間が増えているので、メンタルヘルスについて注意し、多忙化の改善を目指す。</p>	
2	個性や進路希望に応じた指導を行い、体系的なキャリア教育を推進する。	<p>「サタデーサブリ」や「きずな」の活用及びキャリアサポート等による振り返り、3期目初年度のSSH課題研究への取組を通して主体的に進路を選択する能力を育成する。</p> <p>多様な進路希望に応じた情報発信と意識の向上を図り、大学との連携を通じ、個々の目標実現に向け力強いサポートを行う。</p> <p>18歳選挙権に対応した主権者教育を推進する。</p>	<p>やまなしキャリア・バスポート及びClassiの活用 SSH課題研究の全校指導</p> <p>山梨大学との連携事業 連携講演会の設定 進路情報の提示</p> <p>LHR、生徒会活動を通じた意見交換</p>	<p>・90%以上の生徒が意欲的にサブリやきずなを活用しているが、キャリアサポートの活用に関しては約70%に留まっている。また、90%以上の生徒がSSH活動の取組によって、主体性や協調性等が醸成したと自己評価している。様々な進路情報の提示について98%の生徒が肯定的に捉え、有効に収集し、積極的に活用しようとする姿勢があり、講演会等においても積極的に情報入手する具体的な行動に繋がっている。</p> <p>・山梨学院大学との連携協定を締結した。</p> <p>・生徒総会、生徒会選挙を通して主権者教育の指導・周知を行った。</p>	A	<p>・課題研究SSⅠ～Ⅲの時間確保・内容等について検証し、SSH事業の深化・充実を図る。</p> <p>・キャリア・バスポート、Classiを有効活用し、主体的に進路を選択する能力の育成を図る。</p> <p>・山梨大学や山梨学院大学との連携事業を活用し、探究心や課題解決能力、プレゼンテーション能力を育む指導の再構築を図る。</p> <p>・特別活動(HR、生徒会活動)の充実を図り、成人年齢となる年次生徒より社会的自立を促す教育を実施する。</p>	
3	規律や責任を重んじ、豊かな心の育成に努める。	<p>HR活動や生徒会活動を通じて道徳教育を推進する。</p> <p>地域や関係団体と連携を図り、社会活動を積極的に行う。</p> <p>教育相談体制を充実させ個々の生徒の理解を深め、適切な支援に努める。</p>	<p>道徳教育の指導計画作成及び共通理解 家庭と連携した取組の充実</p> <p>地域行事・ボランティア活動への参加 異校種間交流の推進</p> <p>SCの積極的な活用 定期的な生徒情報交換会実施</p>	<p>・学校生活全般において、望ましい生き方・在り方を身に付けようとしてくれている生徒が約97%である。</p> <p>・新入生オリエンテーションや強歩大会などの学校行事、生徒会活動を通じて、他者を思いやる心を大切に、自立性・自主性を尊重している。90%以上の生徒が肯定的な評価をしている。</p> <p>・豊かな心の育成や規範意識を高める教育について、保護者の評価が約90%であった。ボランティアやSSH行事等と地域の交流を図った。</p> <p>・教育相談に係る生徒の対応について、担任、年次、SCと密な連携が図られた。</p>	A	<p>・本校の教育活動や主体的・対話的で深い学びの視点を意識した授業は、道徳教育や生き方あり方を考える機会となる。継続して全校体制で推進する。</p> <p>・自転車やバイクの運転マナーやモラル、SNSをはじめとする情報モラル等の課題について、生徒が主体的に考えられる教育を推進する。</p> <p>・学校と保護者が連携し、「人を思いやること」「規律と責任を重んじること」の重要性を徹底し、体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実を図る。</p>	
4	安全で信頼される学校づくりの推進に努める。	<p>広報誌やホームページ、学校ブログ等を活用して積極的な情報発信に努める。</p> <p>PTA活動の様々な機会を生かして学校との連携を推進する。</p> <p>災害や事故に遭遇した際の危機対応能力や危機管理能力を育成する。</p>	<p>広報誌、SSH通信の発行 定期的なHP更新</p> <p>広報活動及びPTAとの連絡の徹底</p> <p>避難防災計画の可視化 安全管理体制の徹底 保護者への情報発信</p>	<p>・ホームページやブログを使った情報発信、学校紹介ビデオや学校パンフレット作成、オンラインによる学校説明会等、広報に注力し、保護者や関係者から高い評価を得た。</p> <p>・保護者の協力機会を得ることができた。年2回のフードドライブでは生徒・保護者の協力を得て連携を図った。</p> <p>・災害時の防災計画を周知したり、防災避難訓練においては、避難経路の確認や火警被害の学習等、身近に起こり得る具体的な行動・対応スキル機会を設けた。</p>	A	<p>・ホームページやブログ、広報誌を工夫し、校内の情報を積極的に公開していく。学校行事だけでなく授業や部活動等、日々の活動を含め情報発信していく。</p> <p>・ボランティア活動や地域行事等を生徒に周知し、参加を促していく。</p> <p>・学校行事に保護者が参加しやすい方策を考え、促進していく。</p> <p>・ICT活用により、より身近な対策として生徒の危機対応能力を育成する。SNSの利用等についてルール・マナー徹底を図り、安全・安心な学校づくりを推進する。</p>	

学校関係者評価	
実施日(令和5年2月17日)	
評価	意見・要望等
4	<p>・文武両道を軸に実践する教育が、人間力を鍛える他校に無い良い特色といえる。部活動や課外活動について、満足感を持っている生徒が多いが、同時に家庭学習の充実と課題を感じている生徒が多いと思う。次世代のリーダーを育成する目的を長い歴史の中で常に担ってきたので、今後求められるリーダー像を模索しながら役割を果たすべきだと思う。リーダーの資質として重要なものは、判断力、決断力、洞察力等様々なあるが高校生の時期に、その資質を養うためには勉強のみでは物足りない。文武両道の教育方針を貫いてほしい。</p> <p>・コロナ禍による制限もあったが、学園祭や強歩大会など生徒の主体性を育てながらの教員の関わりができており、社会性が育成されていると思う。さらに生徒会活動やHR活動等の活性化を期待する。社会に貢献することのできる人材の育成という視点で皆がリーダーにならなくても自分の人生を大切に歩むことができ、周囲に感謝できる人づくりも大切にしてほしい。</p> <p>・ICTを活用して、わかりやすい授業をされていると思う。授</p>
3	<p>・SSHは日川高校の大切な事業の一つとして、さらに充実する環境を生徒に提供してもらいたい。小中学生との交流をはじめ課題研究における地域企業や諸機関との連携も活用に行い大きな成果を上げている。質の高い指導がされていると思う。継続して自主性、主体性の向上を目指して取り組んでほしい。</p> <p>・キャリアサポートの作成などに課題を感じている生徒もいるが、その意義や目的、つまり自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自分自身の資質や成長を自己評価できることの大切さを伝えてもらいたい。</p> <p>・主権者教育をさらに充実させることを望む。国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し行動していく人材を育成していく必要がある。外部講師(弁護士等)の活用も有効である。</p>
4	<p>・いじめのない信頼された学校として存在し続けるよう期待する。また、いじめについて、プライバシーが守られ、被害生徒がすぐに声をかける雰囲気や環境をつくってもらいたい。いじめアンケートに記載する前に生徒、保護者、先生方の誰もがインシデントレベルで情報が集められると防止策が生まれると思う。</p> <p>・ボランティア活動やゴミの分別などを意識して行っている生徒が多い。ボランティアは異なる価値観に触れられて、見聞を広める絶好の機会となるので大いに奨励すべきである。</p> <p>・他者を認め、思いやる心を持つよう教育が求められる。基本的なルールを守らないことや人を傷つけることがそのまま人評価の高低につながるものでない事を十分理解する必要がある。様々な想定外を事前に想像し、対処の選択枝を増やすことを求めたい。</p>
4	<p>・地域の中学生を招き入れたり、部活動を公開したり、公開授業をスクリーン形式で実施する等を検討してもらいたい。公開授業は各々の先生方の工夫や情熱が伝わり、有意義であった。教員間でマイクロリーディングなど、お互いの授業を見る機会を増やし、研鑽を積んでもらいたい。</p> <p>・継続してHP、ブログなどで日川高校の魅力を発信する努力をしてほしい。</p> <p>・コロナ禍でも工夫しながらPTA等との連携は良く出てきている。継続してほしい。</p> <p>・交通ルールへの徹底など意識している生徒が多いと思う。災害対策について、例えば災害時の対応等に関する動画を生徒自身が作成し、ホームページに掲載するなど、自ら発信することも必要だと思う。大規模災害に備えて、災害発生時にどのような行動をするのかを想定しておく必要がある。</p>

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。